自分流枕草子

四組十六番

A・S

春は桜並木。
花、一つ一つにいろがつき
始め、トンネルのようになる
のはいとをかし。
一つ二つが色づいている
のを見る時は、春の訪れが
感じられる。

夏は夏木立。
葉が緑色になると、虫が
一羽、二羽と次々と飛び急
ぐのはいとをかし。
おい茂る新緑からの虫の
音、風の音など、はた言ふ
べきにあらず。
葉の間から見える空は、い
と小さく見ゆる。

秋は銀杏並木。
一面が色鮮やかににぎや
かになりて、夕日がさして
くると、葉の色が変わるこ
とさへあはれなり。
落ち葉もまた、黄色い絨毯
のようでいとをかし。
周りからは、虫の音だけで
なく銀杏の香りもしてよ
し。

冬は枯れ木の雪。
日が照らした銀世界も良いが、日が落ちた後、暗闇に雪だけが明るいのもいとをかし。
あたたかくなりて枯れ木の雪が解けて落ちてしまうとわろし。